

巻頭言

グローバル人材育成教育学会 第7回全国大会実行委員長 井上雅裕

第7回全国大会は、芝浦工業大学芝浦キャンパスを会場として、大会の前日の12月6日（金）に開催されるGTI（Global Technology Initiative）コンソーシアムのシンポジウムと連携して開催されました。GTIコンソーシアムは、日本と東南アジアに軸足を置き、グローバル人材の育成とイノベーション創出を目的として、アジア各国の大学、産業界、政府機関が国際的な連携を強化する活動を実施しています。

全国大会のテーマは、「ボーダー（壁）を乗り越える試みと成果——（1）初中教育と高等教育の壁（2）日本語・日本文化と外国語・他文化との壁（3）国際間の大学協力の壁（4）大学教育と社会が求める人材像との壁、に挑戦する」とし、さまざまな壁を乗り越える試みと成果が発表されました。

初日の12月7日（土）には、招待講演として東南アジア各国、タイ、マレーシア、ベトナム、インドネシアのトップ工科系大学の各国の代表に登壇いただき、国際間の産学官の連携について考える機会を設けました。また、今回の大会では英語で論文を発表するトラック（English Room）を設け、多様な文化や国籍の教員や学生が学会に参加しました。このように、グローバル人材を育成するための多様性に富んだ全国大会として開催できたことを大変嬉しく思います。

「グローバル人材」の概念として、「要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力，要素Ⅱ：主体性・積極性，チャレンジ精神，協調性・柔軟性，責任感・使命感，要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー」があげられ、さらに「幅広い教養と深い専門性，課題発見・解決能力，チームワークと（異質な者の集団をまとめる）リーダーシップ，公共性・倫理観，メディア・リテラシー」等が求められています。

グローバル人材育成の対象は、初等教育、中等教育、高等教育、社会人のリカレント教育まで広範囲に及びます。また、このようなグローバル人材育成には、教育機関の教員、職員と産業界との国際的連携が不可欠であり、多様なコンピテンシーを育成するためのアクティブラーニング等の教育手法や学修成果の多面的なアセスメントの教育研究が求められています。グローバル人材育成教育学会が、このような多様な学問領域と産学官の連携の媒介としてさらに発展することを期待しています。

（芝浦工業大学 副学長、システム理工学部 教授 井上 雅裕）